

中山間地域における茶園の二番茶摘採後の整・せん枝が翌年の

一番茶の収量および品質に及ぼす影響

西野 恒夫

The Influences of Plucking, Skiffing and Pruning after the Second Crop
on the Yield and Quality of the First Crop of the Following Year
in Hilly and Mountainous Area Tea Plants

Tsuneo NISHINO

要 約

年平均気温が 15 程度の高知県中山間地域の茶園における二番茶摘採後の整・せん枝の方法を検討したところ、つぎのような結果を得た。

1. 樹勢の強い茶園で一番茶摘採時期が 4 月 30 日～5 月 2 日頃になった年では、二番茶摘採 45 日後に二番茶摘採面から 1 cm 上で三番茶芽の刈り捨てを行い、秋整枝を三番茶芽の刈り捨て面から 4 cm 上で行うと、翌年の一番茶生葉収量が増加した。三番茶芽の刈り捨て作業が行われない圃場でも、秋整枝位置を二番茶摘採面から 4 cm 上で実施すると翌年の一番茶生葉収量が増加した。なお、このような年では秋整枝を 10 月 26 日頃とやや遅い時期に行うと、翌年の一番茶生葉収量が増加する傾向を示した。
2. 樹勢の強い茶園で一番茶摘採時期が 5 月 14 日頃と遅く、三番茶出開き度 40%の時期が 8 月 5 日頃と予想される年では、二番茶摘採 25 日後に三番茶芽の刈り捨てを行い、三番茶芽の刈り捨て面から 4 cm 上で 10 月 6 日頃に秋整枝を行うと、翌年の一番茶生葉収量が増加した。なお、このような年には二番茶摘採面から 1.5 cm 低く三番茶芽の刈り捨てを行うと、翌年の一番茶生葉収量が増加する傾向を示した。
3. 樹勢の弱い茶園で一番茶摘採時期が 4 月 30 日～5 月 2 日頃になる年では、三番茶芽の刈り捨てを二番茶摘採 25 日後として二番茶刈り捨て面から 1.5 cm 低く行い、秋整枝位置を三番茶芽の刈り捨て面から 4 cm 上とすると、翌年の一番茶生葉収量が増加する傾向を示した。
4. 樹勢の強弱、三番茶芽の刈り捨ての有無や時期・位置、秋整枝の時期・整枝位置を違えても、一番茶の荒茶品質（形状、色沢、水色、滋味、香気）は変わらなかった。

キーワード：茶，中山間地，三番茶芽，秋整枝，一番茶荒茶品質